

子どもも変わる教員も変わる

静岡県

「問題行動の未然防止プログラム」

○はじめに

「日々子どもと真摯に向き合っているが、なかなか子どもの問題行動が減らない」、「同じ児童生徒が何度も繰り返し問題行動を起こしてしまう」、このようなことを経験している先生方は多いのではないのでしょうか。なぜこのようなことが起きてしまうのでしょうか。それは、今行っている指導が子どもの「表れ」に対する指導が中心で、子どもの内面にまで働きかけるものになっていなかったからだと考えられます。別の言葉で言い換えれば、何か事が起きてからの後追いの指導が中心で、予防的、開発的な視点に立った子どもの「内面の成長を促す指導」に重きを置くことができなかつたとも言えます。

そこで私たちは子どもの自尊感情と規範意識を育むための良好な人間関係づくりに意図的に取り組むことで、子どもの「内面」にまで働きかけ、「表れ」をも変えていくことができる、「問題行動の未然防止プログラム」を作成しました。このプログラムは、校種を問わず、全ての教員に使ってもらえるものとして作成しています。ぜひ、多くの学校で多くの教員に使っていただき、問題行動の未然防止に向けた、静岡県の子どもの健全な成長を促す一助としていただけることを願っています。

○プログラムの特徴

プログラムは
「笑顔」
「活力」
「けじめ」
「思いやり」
「清潔」
「整然」
の6つに分類

6つの
プログラムは
「ホップ」
「ステップ」
「ジャンプ」
の3段階で構成

それぞれの段階は
「教師の働きかけ」
「指導のポイント」
「期待できる効果」
で内容を具体的に
表記

子どもの自尊感情と規範意識を育むための良好な人間関係づくりが、全てのプログラムに盛り込まれています。

○プログラム使用の手順

1 使いたいプログラムを選ぶ

「笑顔」から「整然」まで、6つのプログラムの中から、学級、学年、学校に、今必要だと考える項目を選択します。

2 使う段階を判断する

選択したプログラムの「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の各段階には、それぞれ見出しと説明文が書かれています。これらと、各段階の期待できる効果（子どもの変容）を読み比べながら、今の子どもの実態や求めたい姿を診断し、必要な段階から始めていきます。
※必ずしもホップから始めなくても構いません。

3 「指導のポイント」を意識しながら、「教員の働きかけ」を行う

「教師の働きかけ」には①、②のように番号がついていますが、これは必ずしも行う順番を示したものではありません。ただし、「教員の働きかけ」の番号と「指導のポイント」の番号は対応しています。

「いつでも」「誰でも」「どこからでも」活用できるのがこのプログラムの特徴です。また、「人間関係づくりを手段として、児童生徒の内面に働きかける」という性格上、即効性を求めるというよりも、日々意識して、意図的に働きかけを継続していくことで、効果が表れるものと考えて使用してください。

○「やってみよう」こんな使い方

- 1 プログラムを自分の学級、学年、学校を見立てる手段として活用することで、現状の把握や、今後の目標の立案に役立ちます。
- 2 学年、学校単位など、より大きな集団を対象としてプログラムを使用することで、教員の共通理解が図れ、足並みの揃った多くの目で子どもを見つめることができ、より多くの子どもの変容が期待できます。
- 3 プログラムの内容について、既に当たり前のこととして実践しているという先生方にも、プログラムを基に自分の実践を振り返り、自分が行ってきたことを価値付けたり、より意図的、計画的な働きかけを増やしたりするきっかけにできます。
- 4 人間関係づくりが手段になっていますので、「生徒指導が苦手」という教員も抵抗感無く取り組みます。常に手の届く所に置いて活用してください。子どもたちへの関わり方や、学級経営に取り組む視点が変わります。